

もし救われずば正覚を取らじ

「無量寿経」

「少しコロナも落ち着いてきたかな」、なんて思っていたら、第3波だとか、感染者数最多更新だとか、前より広まるようにも思えます。どうか1日でも早く、また安心してすごせるように、願うところです

新型コロナウイルスという病に対応することの難しさの1つに、なるべく人と会わない、人と話をしないという、互いを助け合って生きるという人間の精神とは真逆で、ともに生きる人間の強さが発揮できないところに、この病がその隙間に入り込んだように感じます

日本は、近年、毎年のように災害にみまわれ、多くの犠牲の中で、大変な痛みを感じさせられました。それと同時に、人と人とが繋がっていく絆の大事さも再認識されるところでもありました。そして、精神的な支援を含め活動を含めボランティア活動も盛んになりました。大変ありがたく、尊い行いであります

また、ボランティアとは自ら進んで、無償の公共性の社会活動に取り組む事を言います

浄土真宗においても、全国の多くのご門徒の皆さんが、ボランティア活動に取り組んでおられます。その団体や個人に対して、宗門の新聞などで評する記事が、取り上げられたりします

しかし充分とはいかず、浄土真宗の僧侶も、もっとボランティア活動にあたらしたらどうかという意見もあるそうです

これについて、宗門ではどのように捉えているかということ、いわゆるボランティア活動そのものも大事なことに変わりはありませんが、もう1つ違った、宗教活動そのままにおいて、表には見えない社会活動が、仏法そのものに含まれていることをしっかりふれられるものです。それを「潜在的な社会性」といわれます

たとえば、例をあげるとしたら、以前、たよりにも書きましたが、若いときからお仏壇にお参りしている人は、犯罪を行う確立が少ないという資料があるそうです

当然、我々は、いつなん時、思ってもいない事を犯すべき人間であり、そういう心を落ち合わせています。しかし、私たちは「複眼」という目をいただき得ることもありえます。悪行を働くときは、大体人が見てないときなのでしょうが、だれもいなくても「いやまてよ、仏さま見てるな、おじいちゃん見てるな」という心が働き悪行を躊躇するとのことです

また、真宗には「悪人正機」という教えがあります。「もうすでにあらゆる悪業を重ねて生きてきた私を、かならず救うとってくださる仏さまがおられる、もうこれ以上は、仏さまにご迷惑を、恥をかかせてはならない」とする悪人正機の生き方です

この新型コロナウイルスという苦難の時期を一緒に乗り越えていきましょう

